

Citation: Suarez-Roa MdL, Reveiz L, Ruiz-Godoy Rivera LM, Asbun-Bojalil J, Davila-Serapio JE, Menjivar-Rubio AH, Meneses-Garcia A. Interventions for central giant cell granuloma (CGCG) of the jaws. Cochrane Database of Systematic Reviews 2009, Issue 4. Art. No.: CD007404. DOI: 10.1002/14651858.CD007404.pub2
CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 24 July 2009.

Clib issue No.; N/U: 2009, Issue 4.

背景: 顎骨の中心性巨細胞肉芽腫(CGCG)は病因不明の稀な良性腫瘍で、下顎(したあご)および上顎(うわあご)の腫瘍症例の7%ほどを占める。

目的: この系統的レビューは、顎骨の中心性巨細胞肉芽腫の治療にあたり、1次治療としての非外科的介入と1次治療としての外科的介入や、それ以外の治療あるいはプラセボ治療との比較を評価することが目的である。

検索戦略: 関連するランダム化比較試験(RCTs)がthe Cochrane Oral Health Group's Trials Register (July 2009); CENTRAL (The Cochrane Library 2009, Issue 3); MEDLINE (1950 to July 2009); EMBASE (1980 to July 2009); および LILACS (1982 to July 2009)のデータより選択された。私たちは、その後追加された試験および前向き臨床試験の登録と関連する文献を検索した。適確なランダム化比較試験(RCTs)は、出版物の言語の種類を問わず、検索に含められた。

選択基準: 1次治療としての非外科的介入と1次治療としての外科的介入あるいはそれ以外の治療との比較が行われたランダム化比較試験。

データ収集と分析: 2人のレビュー著者が、独自に、的確性、バイアスのリスクを評価し、データを抽出した。コクラン共同計画の統計学ガイドラインに沿って行われた。

主な結果: 私たちは、顎骨の中心性巨細胞肉芽腫に対する1次治療としての外科的介入と1次治療としての非外科的介入とを比較して評価している研究を見出せなかった。しかしながら、私たちは、バイアスのリスクがunclear (不明)ながらも、顎骨の中心性巨細胞肉芽腫に対するカルシトニン療法とプラシーボとを比較して評価している1件のランダム化比較試験を検索に含め、解析した。3か月のフォローアップの時点で治療前の測定値と比較し、10%を超える病変の大きさの増大をきたした患者の比率という点で、有意差は見られなかった(1件のランダム化比較試験, 14名の参加者; リスク比 (RR) 3.00, 95%信頼区間 (CI) 0.40 ~ 22.30)。

レビューアの結論: 私たちは、顎骨の中心性巨細胞肉芽腫に対する1次治療としての外科的介入と1次治療としての非外科的介入の治療効果を比較して評価したランダム化比較試験を見出せなかった。多くの非外科療法が顎骨の中心性巨細胞肉芽腫に対して提唱されているが、私たちのレビューはそれらの利用を指示するランダム化比較試験(RCT)のエビデンスを選択できなかった。

(翻訳 岡村和彦・監訳 湯浅秀道; JCOHR)

翻訳公開日: 2011年7月12日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。